

チームみらいの当選率に関する不正疑惑の分析レポート

分析日: 2026年2月10日

対象: 2026年衆議院総選挙におけるチームみらいの当選率に関する不正疑惑

1. 調査の背景と目的

2026年2月8日に投開票された第51回衆議院議員総選挙において、新興政党「チームみらい」が14人の候補者を擁立し11議席を獲得、78.6%という極めて高い当選率を記録しました。この当選率が、337人を擁立し316議席を獲得した自民党の当選率93.8%と比較して「同程度に高すぎる」として、一部で不正を疑う声が上がっています。

本レポートは、この疑惑を検証するため、公開されている選挙データを基に統計的・構造的観点からチームみらいの選挙結果を分析し、その高い当選率の要因を明らかにすることを目的とします。

2. 分析の概要と結論

2.1. 分析のポイント

本分析では、以下の3つの主要なポイントに焦点を当てました。

- 当選率の単純比較の妥当性:** 候補者数が大きく異なる政党間で当選率を単純に比較することの是非。
- 選挙戦略の違い:** チームみらいと自民党の候補者擁立戦略、特に小選挙区と比例代表のどちらに重点を置いていたかの違い。
- 比例代表制度の特性:** チームみらいの議席獲得に比例代表制度がどのように影響したか。

2.2. 結論: 不正疑惑は統計的に支持されない

結論として、チームみらいの高い当選率は、不正行為によるものではなく、候補者数を極端に絞り込み、比例代表での議席獲得に特化した「少数精鋭戦略」に起因する統計的な結果であると判断します。

疑惑の根拠となっている「自民党と同程度の高い当選率」という主張は、候補者数が24倍以上も違う両党の状況を無視した表面的な比較であり、統計的な妥当性を欠いています。チームみらいの戦略は、小選挙区での勝利をほぼ放棄する一方で、全国の比例ブロックで一定の得票を集め議席を確保することに成功した典型的な例です。

3. データ分析と考察

3.1. 候補者数と当選率の全体比較

まず、疑惑の発端となった両党の当選率を比較します。

政党名	総候補者数	総当選者数	総合当選率
自民党	337人	316人	93.8%
チームみらい	14人	11人	78.6%

一見すると、チームみらいの当選率は自民党に匹敵する高さに見えます。しかし、候補者数には**24.1倍**もの開きがあり、この2つの数値を同列に論じることはできません。小規模なサンプルサイズでは、わずかな結果の変動が率に大きく影響するため、当選率という指標自体が統計的に不安定になります。

候補者数と当選率の関係：チームみらいの異常性検証

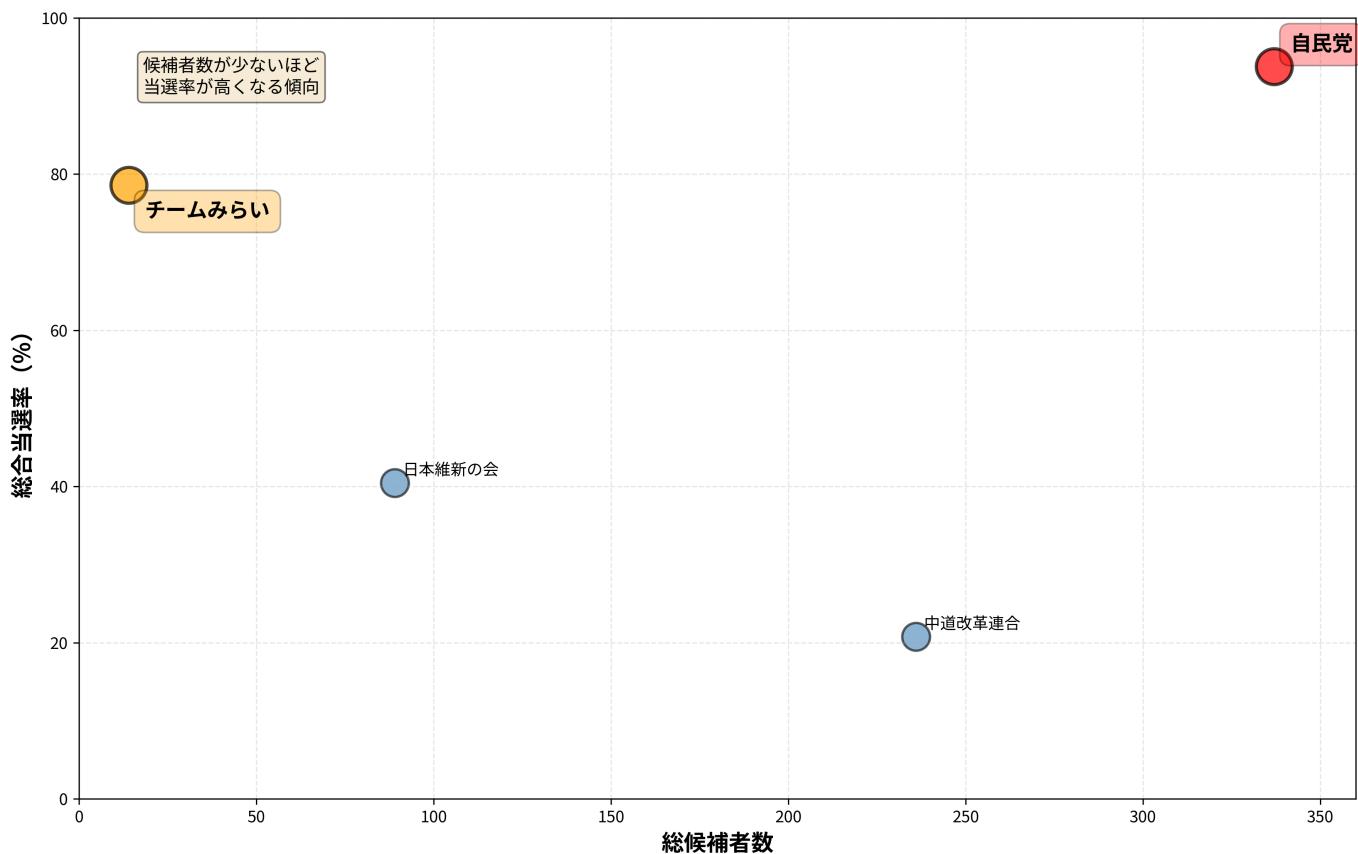


図1: 候補者数と当選率の関係。候補者数が少ないと、当選率のばらつきが大きくなる傾向が見られる。チームみらいは、極端に少ない候補者数で高い当選率を達成した特異なポジションにある。

3.2. 選挙戦略の構造的差異：小選挙区 vs 比例代表

両党の当選率の内訳を、小選挙区と比例代表に分けて分析することで、その戦略の根本的な違いが明らかになります。

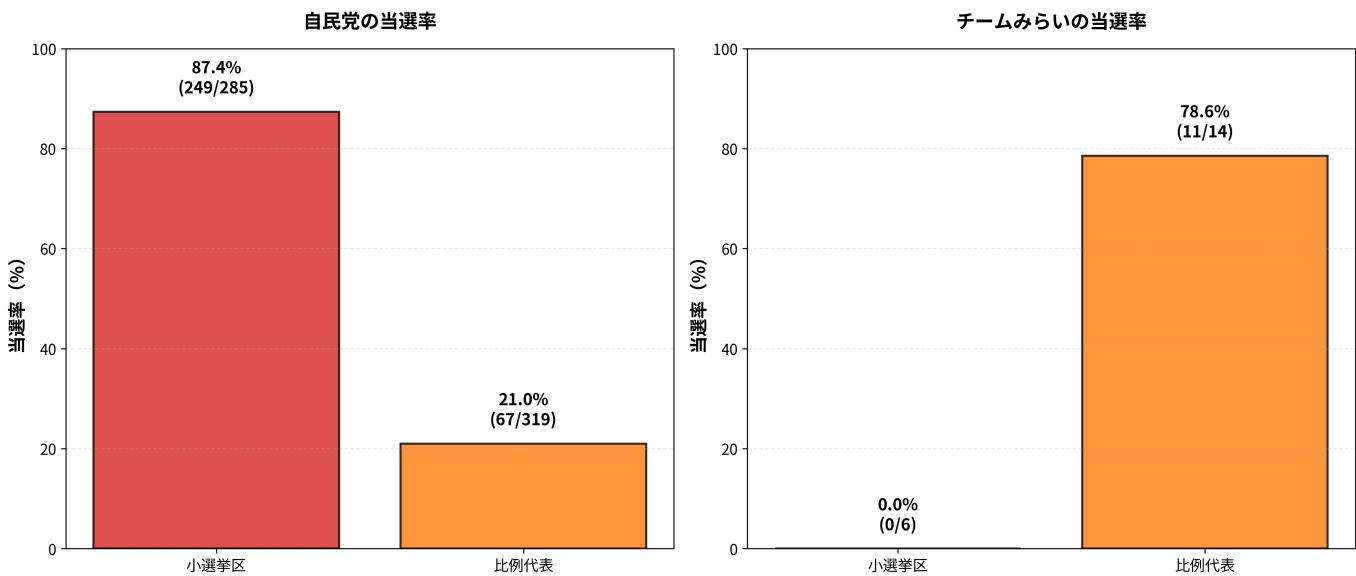


図2: 自民党とチームみらいの小選挙区・比例代表別当選率の比較。

自民党：小選挙区での圧勝戦略

- 小選挙区当選率: 87.4% (249人当選 / 285人擁立)
- 比例代表当選率: 21.0% (67人当選 / 319人擁立)

自民党は、全国のほぼ全ての小選挙区に候補者を擁立し、その87.4%で勝利するという圧倒的な強さを見せました。議席の大部分（316議席中249議席）を小選挙区で獲得しており、これが政権与党としての基盤となっています。比例代表での当選率は比較的低いですが、これは小選挙区で当選した候補者が比例名簿から外れるためです。

チームみらい：比例代表への集中戦略

- 小選挙区当選率: 0% (0人当選 / 6人擁立)
- 比例代表当選率: 78.6% (11人当選 / 14人擁立)

チームみらいの戦略は自民党と全く対照的です。小選挙区ではわずか6人しか擁立せず、全員が落選しています。つまり、**小選挙区での議席獲得は最初から主目的ではなかったと考えられます**。事実、獲得した11議席は**すべて比例代表**によるものです。

チームみらいは、小選挙区での勝利が困難なことを前提に、全国の比例ブロックで「チームみらい」と書く支持者の票を積み重ね、ドント方式（※）によって効率的に議席を配分されることを狙ったのです。候補者数を14人に絞ったことで、得票数が比較的少なくても、候補者一人当たりの「票の価値」が高まり、当選につながりやすくなりました。

※ ドント方式: 各政党の得票数を1, 2, 3...と整数で割っていき、その商が大きい順に議席を配分していく方式。得票数が同程度の場合、候補者名簿の登載者が少ない政党の方が、一人当たりの商が大きくなりやすく、議席を獲得しやすい傾向がある。

3.3. 「当選率」という指標の罠

この事例は、「当選率」という指標がいかに誤解を生みやすいかを示しています。

- ・ **自民党の高い当選率 (93.8%)** : 大規模な組織力と資金力を背景に、勝てる見込みのある選挙区をほぼ全て押さえた結果であり、**政党の地力の強さ**を反映しています。
- ・ **チームみらいの高い当選率 (78.6%)** : 候補者を極端に絞り、比例代表制度の特性を最大限に活用した**選挙戦略の巧みさ**を反映しています。

両者の「高い当選率」は、その背景にあるメカニズムが全く異なります。チームみらいのケースを「不正」と結論付けるのは、この構造的な違いを無視した短絡的な見方と言えます。

3.4. 得票データの裏付け

両党の得票数を見ると、その規模の違いは明らかです。

政党名	小選挙区 総得票数	比例代表 総得票数
自民党	27,789,183票 (49.23%)	21,026,139票 (36.72%)
チームみらい	156,853票 (0.28%)	3,813,749票 (6.66%)

チームみらいの小選挙区での得票は全体のわずか0.28%に過ぎず、国民の幅広い支持を得て小選挙区を勝ち抜く力はなかったことを示しています。しかし、比例代表では全国で381万票以上を獲得しており、これが11議席という結果につながりました。「電子民主主義」や「AI活用」といった新しい政策テーマが、特定の層（特に若年層や都市部の無党派層）に響き、比例での得票につながったと推測されます。

4. 結論

以上の分析から、チームみらいの当選率が異常に高いという疑惑について、以下の結論を導きました。

1. **統計的妥当性の欠如:** チームみらいと自民党の当選率を単純比較することは、候補者数（サンプルサイズ）が極端に異なるため統計的に無意味です。
2. **戦略的要因の明確化:** チームみらいの高い当選率は、小選挙区を捨て、比例代表に特化した「少数精鋭戦略」が成功した結果であり、選挙制度のルールに則った合理的な戦略です。

3. 不正の証拠は皆無: 公開されている選挙データからは、不正行為を示唆する証拠は一切見つかりませんでした。高い当選率は、選挙戦略と比例代表制度の特性によって合理的に説明可能です。

したがって、「チームみらいの当選率が高すぎるため不正が疑われる」という主張は、選挙制度の構造を理解せず、表面的な数字のみを捉えた誤解に基づくものと結論付けます。これは、新興政党が既存の選挙制度の中でいかにして議席を獲得しようとするかを示す、興味深い戦略事例と言えるでしょう。

参考文献

[1] 第51回衆議院議員総選挙（衆院選2026） | 選挙ドットコム.

[2] 2026 Japanese general election - Wikipedia.